

三陸新報

三陸新報社

〒988-0141

気仙沼市松崎柳沢228-100

電話 0226 (22) 6700代

FAX 0226 (23) 6100

URL <http://www.sanrikushimpo.co.jp/>

e-mail news@sanrikushimpo.co.jp

© 三陸新報社 2023年

2023年(令和5年)7月7日 金曜日 (6)

水産業に理解深める

東京・目黒区 黒田小学校の児童が 気仙沼で体験教室



福島社長から缶詰作りについて学ぶ児童

東京都目黒区立駒場小学校（北島陽彦校長）の5年生が、5日から2泊3日の日程で友好都市の気仙沼市を訪問。海山の自然に触れ合うとともに、東日

本大震災からの復興過程や地元の水産業に理解を深めている。6日は、鹿折地区の水産加工場や気仙沼港に停泊中の遠洋マグロはえ縄船などを見学した。

自然宿泊体験教室として、児童と教員合わせて約70人が訪れている。同日は、気仙沼の魚を学校給食に普及させる会（日井壯太郎代表）の案内で、同校に給食用のマグロフレークを納入しているミヤカン（福島庸夫社長）の缶詰工場を訪れた。

福島社長と中村太郎管理部長は、気仙沼港の水揚げされた魚を幅

広い人たちにおいしく食べてもらうために、バジルで風味付けした洋風の缶詰づくりなどにチャレンジしていることや、30分に1回のペースで作業用ゴム手袋の破れがないかをチェックするなど衛生管理を徹底していることを説明。この後、子供たちは、ガラスごしに缶詰め作りの様子を見学した。

缶にふたを付けて密閉する「巻き締め」も体験。子供たちは、用意してきたキーホルダーやアクセサリーなどを入れたオリジナルの缶詰を作り、大喜びだった。

「二宮眞直さん（10）は「気仙沼の魚をおいしく、安心して食べられるように商品開発や衛生管理にさまざまな努力や工夫をしていることが分かった。見聞きしたことを全部がすこいと思った」と話した。

子供たちはこのほか、気仙沼港に停泊中の遠洋マグロはえ縄船第58福福丸（423号）や、市震災遺構・伝承館なども見学した。きょう7日は、亀山トレッキングなどを楽しみ、帰京する。